

海洋深層水利用学会

2025 年度定期総会議案書



議事次第

番号	項目
I	開会の辞
II	議長選出
III	会長挨拶
IV	2024 年度事業報告
V	2024 年度決算報告
VI	2024 年度監査報告
VII	2025 年度事業計画
VIII	2025 年度予算
IX	その他
X	閉会の辞

日時：2025 年 5 月 21 日（水）15:15～16:15

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室

および オンライン会議システム（Zoom）にて開催【ハイブリッド形式】

IV. 2024 年度事業報告

1. 事務局 （今田）

[1] 会員動向

年	月	個人	団体
2011	3	160	45
2012	3	162	45
2013	3	151	43
2014	5	148	42
2015	5	141	46
2016	5	134	44
2017	5	130	44
2018	5	122	44
2019	5	123	42
2020	6	117	40
2021	5	117	41
2022	5	111	40
2023	5	106	40
2024	5	104	41
2025	5	101	42

[2] 2024 年度定期総会

日時： 2024 年 6 月 7 日(金) 13:30 - 15:00

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室

および オンライン会議システム (Zoom) [ハイブリッド開催]

議題： 1. 2023 年度事業報告ならびに収支報告について
2. 2024 年度事業計画ならびに予算案について
3. その他

講演会

時間： 15:10-16:30

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室

15:15-15:35

①学会賞記念講演 ※オンライン

演題：「海洋深層水利用学会 学会賞受賞記念講演」

久米島海洋深層水協議会 会長 大道 敦 氏 (2023 年度学会賞)

(2023 年度学会賞受賞

沖縄県、久米島町、久米島海洋深層水協議会の 3 者による合同講演)

15:35-16:25

②一般講演 ※オンライン

演題：「ロート製薬 久米島での取り組み」

ロート F 沖縄 代表取締役 中原 剣 氏

演題：「久米島における 1MW 海洋温度差発電実施に向けて」

株式会社商船三井 松岡 哲史 氏、大竹 朋 氏

※「久米島海洋深層水フォーラム 2024」会場からオンラインで同時中継

[3] 2024 年度理事会

・第1回 日時：2024年6月7日（金）10:00 - 12:00

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室及びWeb会議システムによるオンライン会議

・第2回 日時：2024年10月17日（木）12:30 - 13:30

場所：室戸市保健福祉センターやすらぎ 第2会議室およびWeb会議システムによるオンライン会議

・第3回 日時：2025年3月26日（水）10:00 - 12:00 Web会議システムによるオンライン会議

2. 学会賞授賞審査委員会 （池上理事）

2024年度海洋深層水利用学会賞について（第2回理事会にて報告済）

2024年4月1日より7月30日を期限に、会員各位に学会賞候補者の推薦依頼を行ったところ、期限内に推薦がなかったため、該当者なしとした。

3. 研究発表企画委員会 （清水理事）

[1] 2024 年度報告

1-1. 体制（全国大会実行委員会）

（研究発表企画委員）

委員長 清水 勝公 清水建設㈱エンジニアリング事業本部
katsunori.shimizu@shimz.co.jp (03-3561-4327)

日向野 純也 (一社) マリノフォーラム 21 (技監)
higano@mf21.or.jp (03-6280-2792)

鈴木 進二 静岡県水産・海洋技術研究所 (深層水科長)
shinji1_suzuki@pref.shizuoka.lg.jp (054-627-1818)

大貫 麻子 (一社) 海洋産業研究・振興協会 (次長)
a-onuki@rio.or.jp (03-3581-8777)

（開催場所対応委員）

実行委員長 植田 壯一郎 室戸市市長
 山崎 桂 室戸市産業振興課 (課長)
mr-011300@city.muroto.lg.jp (0887-22-5154)

山下 武史 室戸市海洋深層水推進班 (課長補佐)
mr-011300@city.muroto.lg.jp (0887-22-5154)

間 正一 室戸市海洋深層水推進班 (班長)
mr-011300@city.muroto.lg.jp (0887-22-5154)

岡崎 拓児 高知県商工労働部工業振興課 (課長)
takuji_okazaki@ken4.pref.kochi.lg.jp (088-823-9720)

筒井 博之 高知県商工労働部工業振興課海洋深層水推進室 (室長)
hiroyuki_tsutsui@ken4.pref.kochi.lg.jp (088-823-9720)

三宮 雅史 高知県商工労働部工業振興課海洋深層水推進室 (主幹)
masafumi_sannomiya@ken3.pref.kochi.lg.jp
 (088-823-9720)

山本 浩 高知県海洋深層水研究所 (所長)
hiroshi_yamamoto2@ken3.pref.kochi.lg.jp
 (0887-22-3136)

竹中 利文 (一社) 高知海洋深層水企業クラブ (会長)

Toshibo2ch@gmail.com (088-856-8600)

深見 公雄 放送大学高知学習センター (所長)

fukami-k@ouj.ac.jp (088-843-4864)

1-2. 第 28 回全国大会

①大会名称：「海洋深層水 2024 室戸大会」

②開催団体

主催：海洋深層水利用学会

後援：文部科学省、水産庁、高知県、室戸市、(一社) 高知海洋深層水企業クラブ

協賛：ドクターリセラ(株)

③ 開催場所：室戸市保健福祉センターやすらぎ

住所：781-7109 室戸市領家 87

T E L : 0887-22-3100

④ 開催日時：令和 6 年 10 月 17 日 (木)、18 日 (金)、19 日 (土)

⑤ プログラム概要：

・全体概要

曜日	17(木)		18(金)		19(土)	
時間帯	am	pm	am	pm	am	pm
オープニング	■					
研究発表 22 題	■	■	■			
見学会 & フェスタ					■	
(懇親会 1.) 全体			■			
(懇親会 2.) 有志				■		
(利用者懇談会/自治体協議会)				■		
(学習推進委員会)			室戸小学校	■		■ 一般向け

・研究発表

10/17(木) 9:00～9:30 受付 8:15 入場可で手配

9:30～10:00 開会挨拶

10:00～12:00 研究発表

12:00～13:00 昼食

13:00～16:30 研究発表

18:30～20:30 情報交換会

10/18(金) 9:30～11:20 研究発表

11:20～11:30 閉会挨拶他

12:00～13:00 昼食

13:30～15:30 海洋深層水サミット 2024

小学生向け出前授業

18:00～20:00 関係者交流会

10/19(土) 9:00～12:00 見学会 (現地解散)

一般向け出前授業

10:00~12:00 深層水フェスタ

- ⑥ 情報交換会：令和6年10月17日(休) 18:30-20:30
関係者交流会：令和6年10月18日(金) 18:00-20:00

- ⑦ 大会開催方式：現地開催+Web参加のハイブリッド形式
・発表方式：現地口演+Web発表 20分/題 質疑込み。

- ⑧予算：下表の通り（2024.3/30 理事会決議事項）。（単位：円）

■収入の部

・研究発表会開催費	研究会事業費	600,000
・大会参加費（Web参加者含む）		
	会員 50名*4,000=	200,000
	非会員 10名*5,000=	50,000
	学生 10名*2,000=	20,000
・地元補助（広告・宣伝費含む）		0

<収入合計> 870,000

■支出の部

・会場費		0（地元負担）
・備品類使用料	プロジェクター 等	0（地元負担）
・設営費	看板 等	50,000
・印刷費	要旨集 等	420,000
・消耗品費	事務用品 等	30,000
・事務運営費		270,000
弁当代	(20+19*2+5)食*1,000=63,000	
通信費	30通*120円*2回=7,200	
人件費	大会支援アルバイト 8人*3日*0円(地元支援)	
準備補助員(半月分)	=0(実行事務局負担)	
その他経費（備品類補充含む）	=199,800	
・取水地特産品購入		0(地元協議会支援)
・特別講演者交通費・宿泊費・雑費		0
・ポスターセッション関連経費		0
・バス借上げ経費(参加者：100名設定)		100,000

<支出合計> 870,000

※情報交換会に伴う移動バス代：開催地支援。

※見学会に伴う入館費用：学会持ち。

- ⑨申込状況（10/10時点）

申込者：104名（会員：91名、非会員：12名、学生：1名）

参加者：対面参加：82名、Web参加：18名、キャンセル：4名

研究発表：22題（対面発表：20題、Web発表：2題、ポスター発表：0題）

※海外：1題（韓国）

4. 論文誌編集委員会 （五十嵐理事 代読：大塚会長）

- [1] 25 巻第 1 号（2024 年 6 月出版）：原著論文 2 編，受賞論文 1 編
- [2] 25 巻第 2 号（2024 年 10 月出版）：第 28 回全国大会特集号
- [3] 25 巻第 3 号（2025 年 2 月出版）：原著論文 1 編，受賞論文 1 編，会員だより 2 編

5. ニュースレター編集委員会 （大貫委員長）

- [1] Vol. 27, No. 1（2024 年 8 月発行済み）（英語版とも）
 - ・第 28 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2024 室戸大会のお知らせ
（海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 植田 壯一郎）
 - ・海洋深層水利用学会 2024 年度定期総会及び講演会報告
（海洋深層水利用学会前事務局長 有馬博史）
- [2] Vol. 27, No. 2（2025 年 2 月発行済み）（英語版とも）
 - ・第 28 回海洋深層水利用学会全国大会「海洋深層水 2024 室戸大会」報告
（研究発表企画委員長 清水勝公）
 - ・海洋深層水サミット 2024 室戸大会パネルセッション報告
（利用促進委員会委員長 山田勝久）
 - ・海洋深層水学習推進委員会の出前授業、学習イベント活動報告
（学習推進委員会委員長 大塚耕司他 5 名）

6. ホームページ編集委員会 （岡村理事）

主な活動内容 … ホームページ更新・メール配信

[1] 開催案内・報告等

- ①総会・理事会開催案内および報告
- ②全国大会（研究発表会）案内・報告、ホームページからの申込み
- ③学会賞候補者募集

[2] 発刊物等掲載

- ①ニュースレター：第 27 巻第 1～2 号
- ②論文誌：第 25 巻第 1 号～3 号

[3] 既存ページの更新・追加

活動内容、組織構成・役員等 掲載内容の更新 等

[4] メールアドレス登録会員へのメール配信：配信件数 6 件

メールニュース、全国大会関連、定期総会・学会賞候補募集他、学会からのお知らせ

[5] バナー広告

契約数：1 件（2019 年度からの継続）

7. 利用促進委員会 （山田理事）

[1] 2024 年度活動報告

2024 年海洋深層水利用学会全国大会における当委員会の活動

昨年の佐渡大会から総合テーマとして「再発見！海洋深層水利活用」の催しを 3 ヶ年計画で進めている。今年 2024 年は、その 2 年目である「今、改めて考える海洋深層水利活用の現状」をテーマに据えて、例年その前日夕刻に開催される全国利用者懇談会を今年は大会 2 日目の 10 月 18 日（金）午後 13 時 30 分から 15 時 10 分の時間で「海洋深層水サミット 2024 室戸大会パネルセッション」と題して、高知県・室戸市・海洋深層水利用学会利用促進委員会の三者共催で現地・Web のハイブリッド形式により開催した。高知県側の企画に基づき、わが国の中央メディアに参加頂いて海洋深層水利用を全国に強くアピールすることを狙った。メディアに注目頂けるように「海洋深層水利用 SDGs」を伏線にパネルセッションを展開した。このセッションでは各パネラーも互いに刺激を受けて、海洋深層水利活用の有用性を再認識したとの声が聞こえた。

また本企画は、高知県側のタイムリーなプレスリリースも相まって、即日地元メディアから、少し遅れて中央メディアにも取り上げられて、大目標が達成されたと思う。

8. 日台韓交流委員会（高橋理事）

[1] 台湾関連

（1）台湾深層水資源利用学会の会務

①2024年度の総会は11月13日に国立台湾海洋大学で開催し、国際シンポジウムを同時開催。2024年度大会で理事長（2年任期）改選が行われた（現理事長の台湾海洋大学冉（ナン）繁華副学長が再任（要確認））。

②2024年11月13日、国立台湾海洋大学で2024台湾深層海水資源利用学会大会が現地とウェブで同時開催され、参加者数は100名超。日本、韓国、シンガポールから専門家が招待され、活発な議論が交わされた。海洋深層水利用学会からはGOFarmの驚足恭子さんがカキの陸上養殖を、シンガポールのTFIW社（Transocean Fortune Integrator (Water) Pre. Ltd. 社）の許社長はオマーンの深層水プロジェクトを、そして韓国のKIOSTの研究が招待講演をした。

③台湾深層水資源利用学会の事務局が置かれている石材センターでは、3月末に理事会が開かれ、運営チームが一新。林慶明董事長と林志善總經理が退任し、新北市にある石材会社の社長が新任の董事長に就任し、總經理の選任は難航している模様。政府出資の大きな組織は上からの指示で責任者は更迭されるが、政府出資50%と大きな石材センターではこれまでは更迭は珍しく、今回の更迭には政治的な理由の可能性を推測する向きもある。

（2）花蓮の地震：2024年4月3日に花蓮でマグネチュード7.2の地震があり、台湾肥料社と光隆社の取水施設が被害を受けた。

①台湾肥料社：地震直後に大量の土砂やゴミがストレーナーに詰まり取水不能になり、翌日のテスト取水によって、水温が本来の9-10℃から17-18℃に昇温していて、水深300mでの取水管の破断を確認。その後、施工会社の前田建設に修復について問い合わせしたが、深層水業務を撤退しているため引き受けられないという回答を得、国内の取水工事会社や海外の業者に問い合わせしているが、未だ、対処方法の結論は出ていない。現在、水温18℃程度の原水を自社のエビや藻類の養殖に提供しているが、子会社の台湾海洋深層水社への原水供給は水質が安定しないためストップし、4月3日から苦汁、塩、ミネラルウォーターなどの飲食品生産は停止。台湾は数年前から海岸保護法が施行され、以前よりも海岸工事の申請手続きが難しくなったことも台湾肥料社の取水管修復を困難にしている一因と思われる。現在、旧取水管を水深30mほどで切断し、新しい取水管を繋げる工事方法が考えられている。また、台湾肥料本社によると、7月頃に台湾海洋深層水社が親会社の台湾肥料社に、今後は深層水関連商品の生産業務は親会社に移管し、自社はマーケティングと販売のみとの経営案を呈示し、両社で経営方針転換についての調整が続いている。

②光隆社：地震直後に地上の送水管部分が地震の地盤変動で破損し、深層水と表層水ともに取水量が激減したが、数日後に仮復旧し、水温と取水量に異常がないことが確認された。地震の約1ヶ月後に地上の送水管の修復は終わり正常化。一方、台湾肥料社の取水トラブルにより、光隆社は台湾で唯一取水施設をもつ民間企業となり、2024年は過去最高の売上を達成。

③台湾肥料社と光隆社以外の台湾国内の深層水関連施設には地震による大きな被害はなかったが、台東県の深層水研究センターでは原水の混濁など一時的な影響が見られた。

④台湾での民間の海洋深層水民間3社の一つのラッキーセメント社の取水管は地震前にすでに破損していた。なお、2023年末に陳両傳董事長が他界し、深層水事業は娘婿が引き継ぐことになったが、先行きは不明。

（3）台湾セメント社の海洋温度差発電（OTEC）計画

①台湾セメント社は2028年に1MW（最終的には10MW規模）のOTECの設置目標を掲げ、全体計画を子会社の和平発電所（石炭火力）に移管し、用地の取得や環境評価を進行中。法律で定められた海洋文化財調査は終了し、環境影響評価が行なわれている。經濟部東部深層海水研究所に新設取水管を設計した龔誠山氏を顧問として招聘して取水工事を検討。また、取水工事に先立ち、発電後の排水の大量かつ有効利用として冷水性魚類の陸上養殖を検討中で、9月中旬に丸紅台湾支店の幹部が現場を訪問し、循環式養殖システム(RAS)の導入の可能性について話し合いを実施。

（4）オマーンの深層水プロジェクト

①Transocean Fortune Integrator (Water) TFIW社（シンガポール）と中東のオマーンの政府系ファンドが共同

出資して8月に設立したOman Deep Ocean LLC社が昨秋に最初の資金調達（約1億ドル）を終え、オマーンのインド洋沿岸で深層水プロジェクトを展開する。主に日量5万トンの海水淡水化による上水供給のほか、ミネラルウォーターや農業、水産への利用も計画。場所は、首都マスカットの南西120kmのQurayyatで、38.5ヘクタールの土地を確保して水深400mから海洋深層水を陸上揚水し、大規模淡水化、水産物養殖、農業などを行う工業団地造成が計画されている。台湾や日本の深層水利用会社からの協力が期待されている。

②Oman Deep Ocean社の代表を含むプロジェクトメンバー約10名は2024台湾深層海水資源利用学会大会に参加し、大会後、台湾の深層水取水・利用施設を見学し、現地の研究者や事業者と熱い意見交換。

[2] 韓国関連

- （1）韓国海洋深層水利用学会大会は12月5～6日に高城郡束草市で開催。
- （2）江原道高城郡は、海洋深層水利用の第2産業団地造成を進めていて、追加の取水管敷設を検討中。
- （3）江原道三陟市（高城郡よりかなり南側）は、地理的条件や地元の漁業・観光業に関連した経済的関心から、海洋深層水利用の積極的な検討を進め三陟市としての妥当性を模索中。特に、近くにリゾートがあり、深層水の特性を生かした新たな産業創出や地域活性化への期待がある。
- （4）江原特別自治道と陽陽郡は県北部での産業活動の一つとして「江原型K-サーモン産業化」スマート養殖団地造成事業を（株）東原産業と遂行中。
- （5）韓国南部や済州島では、海藻類の繁殖が盛んでアワビなどの藻食魚介類の生産が高く、温暖化による藻場の減少が懸念されているが、今のところ具体的なデータの取得には至っていない。

9. 総合戦略検討委員会（池上理事）

[1] 関係省庁との情報交換および連携

内閣府総合海洋政策推進本部等関係機関と海洋深層水の状況報告と情報交換を行った。

「エネルギー基本計画 第7次」では、海洋深層水利用を利用したエネルギーに関しての特記の記述なし。

「エネルギー基本計画 第7次」P29

（カ）その他の課題

自然由来の再生可能エネルギー熱は、地域性の高い重要なエネルギー源であり、経済性や地域の特性に応じて進めていくことが重要である。太陽熱、地中熱、雪氷熱、温泉熱、海水熱、河川熱、下水熱等の自然由来の再生可能エネルギー熱について、熱供給設備の導入支援を図るとともに、複数の需要家群で熱を面的に融通する取組への支援を行うことで、再生可能エネルギー熱の導入拡大を目指す。

また、波力・潮力等の海洋エネルギーを始めとする革新的な技術について、低コスト化・高効率化や多様な用途の開拓に資する研究開発等を推進する。

今後、海洋深層水の関連機関に海洋深層水の状況報告と情報交換を積極的に取り組む予定である。

10. 産公学連携推進委員会（深見理事）

[1] 2024年度活動報告

- ・ ZoomによるWebおよびメールにより、委員会を数回開催した。
- ・ 海洋深層水の多段・多量利用の理想型について検討した。
- ・ また、これまで多くの深層水利用実績がある、富山県・高知県・沖縄県の3カ所をモデル取水地として選抜し、多段・多量利用に対する現状とその問題点について調査した。
- ・ その結果、以下の様な問題点があることが明らかとなり、現状では多段利用は必ずしも現実的ではないことが分かった。

- 1) 取水施設の面積や配管等が多段利用を想定して設計されていないこと
- 2) 各段階での海水の必要量が必ずしも同程度でなく、海水に余剰が出たり不足したりする問題があること
- 3) 各段階での、水質管理の問題があること

しかし一方で、冷熱源利用や水産利用の面からは、多段利用の可能性があることが明らかとなった。

- ・ また、現状では取水に関わるコストについては特に大きな問題とはなっていないが、将来的にコストを考慮する必要性が生じれば、多段利用を検討する事も不可欠であろう。
- ・ これらの結果を、室戸での全国大会で講演・報告した。

1 1. 学習推進委員会（大塚会長）

以下の4回の会議を実施し、学習イベントへの準備を実施した。

- [1] 第1回委員会会議（オンライン） 2024年 7月 4日 16:00～16:40
 第2回委員会会議（オンライン） 2024年 8月 7日 11:00～12:00
 第3回委員会会議（オンライン） 2024年 9月 24日 16:30～17:30
 第4回委員会会議（オンライン） 2025年 3月 17日 16:00～16:35

[2] 学習イベント実施内容（報告）

実施内容はDOWAS ニュースレター（2024, Vol. 27, No. 2）にて報告した。

[2]-1 出前授業

日時：2024年10月18日（金） 13:30～15:30

場所：室戸市立室戸小学校

対象者：5年生 31名

実施内容：挨拶とアイスブレイキング（○×クイズ、利き水）

講座：地球の深海の流れと海洋深層水、海洋深層水の利用～持続可能な世界に向けて

実験：小型水槽を用いた実験（大循環、サイフォン、温度差発電）

[2]-2 学習イベント

日時：2024年10月19日（金） 9:00～12:00

場所：室戸海洋深層水アクア・ファーム

対象者：海洋深層水フェスタ参加者（約数十名来場）

実施内容：海洋深層水関連ポスター展示、小型水槽を用いた実験、顕微鏡による藻類の観察

1 2. 海洋深層水大容量取水技術検討委員会（白枝委員長）

[1] 2024年度活動報告

[1]-1 体制

委員長	清水建設(株)	白枝 哲次○(陸上型 委員長)
委員	(一社)海洋産業研究・振興協会	大貫 麻子○
	NPO 海ロマン 21	井上 興治●
	大阪公立大学	大塚 耕司○
	(株)大内海洋コンサルタント	大内 一之●(洋上型 委員長)
	(株)商船三井	松岡 哲史○
		大竹 朋●
		佐野 雅人●
		宮路 哲朗○
	佐賀大学	池上 康之○
	大阪電気通信大学（寝屋川キャンパス）	安永 健○
	ジャパン マリンユナイテッド(株)	北小路 結花●
	個人会員	堀 哲郎○
	清水建設(株)	清水 勝公○
	大成建設(株)	野田 剛史○
	(株)関海事工業所	池内 真司●
	日本海工(株)	宮本 一之○
	日本サルヴェージ(株)	安光 義輝○
	パシフィックコンサルタンツ(株)	三浦 健悟○
		岡嶋 理功○
	三井金属エンジニアリング(株)	佐藤 晋吾○
	古河産業(株)	楯 貴幸○
	古河電気工業(株)	山口 武治○

凡例 ○：陸上型・洋上型 WG、○：陸上型 WG、●：洋上型 WG

[1]-2. 活動報告

- 委員会編成を取水管の設置形式により下記 2 チームに分け、検討を深化させることとした。
 - 浮体式チーム（リーダー：大内委員）
 - 陸上式チーム（リーダー：白枝委員）
- 予算としては会議使用料として“100,000 円”を計画した。
- 今年度は 6 回の WG が持たれ、第 28 回全国大会に委員会活動に関して報告がされた。
- これまでの検討内容としては以下の通りであり、調査・検討半ばの状況である。
 - 〈調査関連〉
 - ・ 管路実績調査
 - ・ 文献調査
 - ・ 管種別使用実績調査
 - ・ 現状の製管状況
 - ※PE 管・同鎧装管の国内工場（古河、積水、三井、ダイプラ、クボタ、海外）
 - 〈形式別管路開発に関する基本検討〉
 - ・ 開発条件の設定
 - ・ 製管の開発制約（継続検討）
 - ・ 管路の施工に関する検討（継続検討）
 - 〈現状の最大口径と次期対応口径の想定〉26 年度検討
 - 〈将来に向けての大口径管路のコスト検討〉26 年度検討

V. 2024 年度決算報告（事務局）

2024年度会計収支報告書

収入の部	人数		予算		人数		決算
会費収入							
個人会員	5,000	106	530,000		5,000	99	495,000 未納9名
学生会員	2,500	0	0		2,500	0	0 未納0名
団体会員	50,000	42	2,100,000		50,000	41	2,050,000 未納1団体
徴収免除会員（名誉会員）	-	1	0		-	1	0
未納分会費収入	5,000	5	25,000		5,000	3	15,017 (17円は為替)
未納分会費収入(未納者・学生)	2,500	0	0		2,500	0	0
その他の収入							
論文誌売上費			0				10,980
利息			0				3,821
雑収入							27,000
当期収入合計 (A)			2,655,000				2,601,818
前年度繰越金			6,987,832				6,987,832
収入合計 (B)			9,642,832				9,589,650

支出の部

事業費							
総会			30,000				25,140
研究発表企画委員会			600,000				93,512
論文誌編集委員会			1,000,000				829,185
HP/NL編集委員会			265,056				0
日台韓交流委員会			100,000				0
利用促進委員会			40,000				0
学習推進委員			100,000				30,077
大容量取水技術検討委員会			100,000				30,410

目的別積立費

海外研究者招聘（日台韓交流委員会）	100,000
-------------------	---------

事務局経費

委託費	1,200,000	1,200,000
消耗品費	200,000	44,198
通信運搬費		16,774
旅費		62,080
その他事務経費		168,800

当期支出合計 (C)	3,735,056	2,500,176
------------	-----------	-----------

当期収支差額 (A)- (C)	-1,080,056	7,089,474
-----------------	------------	-----------

次年度繰越金 (B)- (C)-FY2024積立金	5,907,776	6,989,474
---------------------------	-----------	-----------

海外研究者招聘（日台韓交流委員会）目的別積立金

2023年度	100,000
2024年度	100,000
合計	200,000

注記

2024 年度の HP/NL 編集委員の費用は、請求書到着の遅延により支出計上されなかった。当該費用は、2025 年度に 2024・2025 年度分を併せて計上する予定とする。

VI. 2024 年度監査報告（日向野監査）

2025 年 3 月 14 日

海洋深層水利用学会

会長 大塚 耕司 様

2024 年度会計監査報告

2024 年度における本学会の会計に関して、出納帳簿および証拠書類を精査し、現金・預金の残高と照合しましたところ、すべて適正に処理されているものと認めました。

また、その他の会務に関しましても、会則に沿って適正に執行されているものと認めました。

以上、署名の上、報告します。

監査

日向野 純也 

VII. 2025 年度事業計画

1. 事務局（今田）

総会および理事会

[1] 2025 年度定期総会

日時：2025 年 5 月 21 日（水）15:15～16:15

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室

および オンライン会議システム（Zoom）にて開催【ハイブリッド形式】

議題：

1. 2024 年度事業報告ならびに収支報告について
2. 2025 年度事業計画ならびに予算案について
3. その他

講演会（一般公開）

時間：16:30～17:15

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室

および Zoom によるハイブリッド開催

[2] 2025 年度理事会

第 1 回理事会

日時：2025 年 5 月 21 日（金）13:00 - 15:00

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室および

Web 会議システムによるオンライン会議（Zoom）

ほか、メール審議を含め数回程度理事会を開催する予定

2. 研究発表委員会（清水理事）

[1] 2025 年度計画

1-1. 体制（全国大会実行委員会）

（研究発表企画委員）

委員長	清水 勝公	清水建設(株)エンジニアリング事業本部 katsunori.shimizu@shimz.co.jp (03-3561-4327)
	日向野 純也	(一社) マリノフォーラム 2 1 (技監) higano@mf21.or.jp (03-6280-2792)
	青島 秀治	静岡県水産・海洋技術研究所 (深層水科長) suigi-sinsousui@pref.shizuoka.lg.jp (054-627-1818)
	大貫 麻子	(一社) 海洋産業研究・振興協会 (次長) a-onuki@rio.or.jp (03-3581-8777)

（開催場所対応委員）

実行委員長	桃原 秀雄	久米島町長
	大道 敦	(株)ポイントピュール代表取締役社長 久米島海洋深層水協議会会長 ohmichi39@i.softbank.jp (098-896-8701)
	岡村 壺	GOSEA 事務局

okamura@xenesys.com (098-896-8656)

鷺足 恭子 (株)ジーオー・ファーム 取締役副社長

washiashi@kumejima-oyster.com (098-985-8292)

中原 剣 (株)ロート・F・沖縄 代表取締役社長

nakaharaken@rohto.co.jp (098-987-1108)

瀬口 航 久米島町商工観光課久米島海洋深層水協議会事務局

w-seguchi@town.kumejima.lg.jp (098-985-7131)

(支援)

DOWAS 事務局 今田 千秋 海洋深層水利用学会事務局長

dowas.saga@gmail.com (0952-28-8827)

1-2. 第 29 回全国大会

①大会名称：「海洋深層水 2025 久米島大会」

②開催団体

主催：海洋深層水利用学会

後援：調整中（文部科学省、水産庁、沖縄県、久米島町、久米島海洋深層水協議会）

協賛：調整中（ドクターリセラ株）

③ 開催場所：

・研究発表

具志川農村環境改善センター

〒901-3124 沖縄県島尻郡久米島町仲泊 730 (098-985-2444)

④ 開催日時：令和 7 年 11 月 6 日（木）、7 日（金）

⑤ プログラム概要：調整中

・全体概要

曜日	6(木)		7(金)		8(土)	
時間帯	am	pm	am	pm	am	pm
オープニング						
研究発表 22 題						
見学会						
(情報交換会)						
(利用者懇談会)			めんそーれ久米島			
(学習推進委員会)			小学校			
(島内オフショールツアー)						

※(): 関連イベント

・研究発表

11/6(木) 9:00～9:30 受付 8:15 入場可で手配

9:30～10:00 開会挨拶

	10:00～12:00	研究発表
	12:00～13:00	昼食
	13:00～16:30	研究発表
	18:30～20:30	情報交換会
11/7(金)	9:30～11:30	研究発表
	11:30～12:00	学会賞発表/閉会挨拶他
	12:00～13:00	昼食
	13:15～16:30	見学会（現地解散、空港および事例共有会会場への 送迎有）※久米島空港－那覇空港 16:45、18:25
	13:15～15:30	小学生向け出前授業
	17:00～19:00	めんそーれ久米島へ/海洋深層水利活用事例共有会 （兼 全国利用者懇談会）
11/8(土)	9:00～12:00	島内オブショナルツアー（計画中）

- ⑥ 大会開催方式：現地開催+Web 参加のハイブリッド形式
・発表方式：現地口演+Web 発表 20分/題 質疑込み。

- ⑦ 予算：下表の通り予定。（単位：円）

■収入の部

・研究発表会開催費	研究会事業費	600,000
・大会参加費（Web 参加者含む）		
	会員 50名*4,000=	200,000
	非会員 10名*5,000=	50,000
	学生 10名*2,000=	20,000
・地元補助（広告・宣伝費含む）		0

<収入合計> 870,000

■支出の部

・会場費		0（地元負担）
・備品類使用料	プロジェクター 等	0（地元負担）
・設営費	看板 等	50,000
・印刷費	要旨集 等	420,000
・消耗品費	事務用品 等	30,000
・事務運営費		270,000
弁当代	(20+19*2+5)食*1,000=63,000	
通信費	30通*120円*2回=7,200	
人件費	大会支援アルバイト 8人*3日*0円(地元支援)	
準備補助員(半月分)	=0(実行事務局負担)	
その他経費（備品類補充含む）	=199,800	
・取水地特産品購入		0(地元協議会支援)
・特別講演者交通費・宿泊費・雑費		0
・ポスターセッション関連経費		0
・バス借上げ経費(参加者：100名設定)		100,000

<支出合計> 870,000

1-3. 2026 年以降の計画

- ・入善町(2026 年)
- ・能登町(2027 年)復興状況による。

※誘致先とは調整済。

※2028 年度以降の誘致先活動を募集（2027 年能登町殿不調の場合は東京大会も検討）

3. 論文誌編集委員会 （五十嵐理事 代読：大塚会長）

[1] 海洋深層水研究 発行

26 巻第 1 号（2025 年 5 月出版予定）：原著論文 2 編，会員日より 1 編，久米島大会案内

26 巻第 2 号（2025 年 10 月出版予定）：第 29 回全国大会特集号

26 巻第 3 号（2026 年 3 月出版予定）

4. ニュースレター編集委員会 （大貫委員長）

年 4 回のニュースレター発行

内容：ニュースレター、特集、報告等

5. ホームページ編集委員会 （岡村理事）

[1] ホームページ更新・メール配信

- ① 開催案内・報告等：総会・理事会開催、全国大会・利用者懇談会関連（申込フォーム）、学会賞
- ② 発行物：ニュースレター、論文誌
- ③ 既存ページの更新・追加等

6. 学会賞受賞審査委員会 （池上理事）

[1] 2025 年度活動計画

2025 年度学会賞および功労賞候補者の募集を 2025 年 4 月 1 日付で行い，ホームページで周知した（巻末参照）。締め切りは、2025 年 7 月 31 日（木）必着である。

7. 利用促進委員会 （山田理事）

2025 年度活動計画提案

[1] 2025 年全国大会に付随した利用促進委員会の活動計画

今年の利用促進委員会は、「めんそーれ久米島へ／海洋深層水利活用事例共有会」（久米島町・久米島海洋深層水協議会共催）の企画に現地の希望に呼応して「協力」という形で参画することになりました。

以下に主催者からの情報を記します。

【企画名】めんそーれ久米島へ／海洋深層水利活用事例共有会

【主催者】久米島町・久米島海洋深層水協議会（共催）

【日 時】11 月 7 日（金）17:00-19:00

【場 所】イーブ情報プラザ（〒901-3108 久米島町字比嘉 160-57、Tel. 098-851-7973）

【開催趣旨】国内外の海洋深層水活用事例の共有と参加者の情報交換を行い、更なる利活用の促進を図ることを目的とする

【内容】動画やトークによる、海洋深層水活用事例（国内外）の紹介及びフリーディスカッション、今回の見学会や出前授業の速報なども盛り込む予定。

【参加対象者】研究発表会参加者および久米島町内海洋深層水関係者。

【会費】¥2,000／人（DOWAS 会員・非会員を問わず同額）

[2] 経費予算

今年度の本委員会の活動費用として、20,000 円（上記活動経費分ほかとして）を計上します。

8. 日台韓交流委員会（高橋理事）

[1] 日台韓交流協定に基づき、以下の事業を実施する。

- （1）相互の学会大会への会員派遣、DOWAS 全国大会への招聘に関する事。日台韓交流委員会積立金（研究者招聘・派遣）の活用。
- （2）相互の学会論文集への論文投稿に関する事。
- （3）相互の情報誌への記事掲載に関する事。

9. 総合戦略検討委員会（池上理事）

[1] 海洋深層水利用に関する学術分野の推進

- ・外部資金への応募
外部資金への申請を進めるべき体制の準備を進める。
来年度の申請に向けて、早急に準備していく予定。
- ・全国の深層水利用の学術分野での利用推進
全国の海洋深層水取水施設と全国共同利用共同研究施設 佐賀大学
海洋エネルギー研究センターが協力して、可能な範囲で学術的な利用促進方法を引き続き検討

10. 産公学連携推進委員会（深見理事）

[1] 2025 年度活動計画

- ・ 2024 年度の調査結果を整理したうえで、深層水の多段・多量利用法の「普遍化」モデルを構築し、将来的に、それぞれの深層水取水地の事情に適合・応用できるよう、カスタマイズしていく。
- ・ これらの結果を広く公表するため、学会誌に報告書または論文として投稿する予定である。

11. 学習推進委員会（大塚会長）

[1] 2025 年度実施内容（予定）

[1]-1 出前授業：2025 年 11 月 7 日（金）（今後調整予定）

実施内容：前年度内容と同様

[1]-2 学習コンテンツ

JAMSTEC の STEAM 教材への海洋深層水の教材追加を目指す。

※2025 年 4 月 11 日に JAMSTEC と打ち合わせ実施。

[2] 2025 年度予算

学習イベント実施のため 10 万円の予算を希望します。

12. 海洋深層水大容量取水技術検討委員会（白枝委員長）

[1] 2025 年度活動計画

- ・ 2024 年度調査・検討業務の継続。
- ・ 年度末には一定の成果のまとめを行う。
- ・ 11/6-DOWAS 全国大会での成果発表を行う。
- ・ 今年度予算として、会議使用料等で“100,000 円”を申請する。

VIII. 2025 年度予算（事務局）

2025 年度一般会計予算案

単位(円)

収入の部

【会費収入】	個人会費収入	100	*	¥5,000	¥500,000
	学生会費収入	0	*	¥1,000	¥0
	団体会費収入	42	*	¥50,000	¥2,100,000
	2024年度会費収入(未納者	4	*	¥5,000	¥20,000
	2024年度会費収入 (未納者・学生)	0	*	¥1,000	¥0
当期収入合計[A]					¥2,620,000
繰越金					¥6,989,474
収入合計[B]					¥9,609,474

支出の部

【事業費】	総会	¥30,000
	研究発表企画委員会	¥600,000
	論文誌編集委員会	¥1,000,000
	HP/NL編集委員会	¥668,756
	利用促進委員会	¥20,000
	日台韓交流委員会	¥100,000
	学習推進委員会	¥100,000
	大容量取水技術検討委員会	¥100,000
【目的別積立費 FY2023-】	海外研究者招聘（日台韓交流委員会）	¥100,000
【事務局経費】	委託費	¥1,200,000
	その他事務経費	¥200,000
当期支出合計[C]		¥4,118,756
次年度繰越金[B]-[C]		¥5,490,718
当年度収支[A]-[C]		(¥1,498,756)

目的別積立の部

海外研究者招聘（日台韓交流委員会）	¥200,000
-------------------	----------

注記

当該年度の予算には、前年度に請求書到着が遅延したホームページ更新費用を含めて計上している。

IX. その他（事務局）

[1] 「若手の会」の創設について

学生会員を含む若手研究者の育成および学会活動への積極的な参画を促進し、学術的ネットワークの形成を支援

することを目的として、新たに「若手の会」を設立することを提案する。2025 年 4 月 3 日（木）に開催された検討会において、本会の幹事として安永健理事が選出された。今後、具体的な運営方針等については継続して検討を進めていく予定である。

【2】会則の加筆一部修正案（学生会員の明確化および会費改定）について

学生会員の積極的な学会参加を後押しするため、以下の通り学生会員の制度を明文化し、会費改定を提案する。

【第 4 条（会員）】 会員は、個人会員、学生会員、名誉会員、団体会員および賛助会員の 5 種類とする。
（5） 学生会員は、大学または大学院等の教育機関に在籍し、かつ在学証明書または学生証を有する個人。
*学生会員について加筆

【第 5 条（会員の権利）】
（3）学生会員は、総会における議決権を有しない。
*学生会員について加筆

【第 8 条（会費）】

<変更前>

（1） 個人会員の会費は年額 5,000 円。ただし在学が証明される学生会員は会費を 2 分の 1 に減額する。

<修正案>

（1） 個人会員の会費は年額 5,000 円とする。
（2） 学生会員の会費は年額 1,000 円とする。

【3】学生会員の情報交換会参加費に関する細則案について

学生会員の参加しやすい環境づくりの一環として、以下の細則を制定し、2025 年度より適用することを提案する。

海洋深層水利用学会 情報交換会参加費に関する細則（案）

第 1 条（目的）

本細則は、海洋深層水利用学会における情報交換会（懇親会）への参加に際し、学生会員の参加費に関する基準を定めることを目的とする。

第 2 条（対象）

本細則の対象は、学生証もしくは在学証明書を有し、当該年度において学生会員として登録されている会員とする。

第 3 条（情報交換会参加費）

学生会員が情報交換会（懇親会）に参加する場合の費用は、原則として 1,000 円とする。
ただし、学会の財政状況や開催形式等に応じて、理事会の承認を経て変更することができる。

第 4 条（適用開始）

本細則は、2025 年度より適用する。

【4】団体会員に所属する「構成員」に関する会則修正案について

これまで、団体会員に所属する構成員は、実質的に当学会の各種活動（学会発表、情報交換会、表彰制度等）に参加できたが、今回、学生会員制度の整備および若手の会の創設を契機として、構成員の活動参加に関する条項を会則上に明記し、より明確な運用を図るための修正を以下の通り提案する。

【第 5 条（会員の権利）】

<変更前>

（1） 会員は、本会が行う事業への参加資格を有する。ただし、賛助会員は、理事の選挙権と総会における議決権を有しない。
（2） 会員は本会の刊行物の配布を受けることができる。

<修正案 項目追加> *（1, 2, はそのまま）

団体会員に所属する構成員（例：企業、団体、研究機関、大学等に所属する職員、研究員、学生）は、学会発表、表彰制度（学会賞等）、若手の会、情報交換会等、当学会が実施する諸活動に参加できる。

巻末資料 *DOWAS ホームページからダウンロードできます。

2025年度

「海洋深層水利用学会賞」候補者の推薦

推薦者氏名

印

候補者 氏名		所属 機関		生年月日 (西暦)	
業績題目					

推薦理由(1頁以内)

--

受付日 2025年 月 日

「海洋深層水利用学会賞」 推薦対象業績

(推薦対象となった業績等について、現在から順に発表年次を過去にさかのぼって記載すること。論文等 印刷物の場合は、著者名、題目、掲載誌、発行年等を記載すること。)

別紙記載可

印刷発表業績のうちわけ

- | | |
|------------|---|
| 1. 海洋深層水研究 | 編 |
| 2. その他 | 編 |

「海洋深層水利用学会賞」候補者

略 歴

2025 年 月 日現在

ふりがな 候補者氏名		生年月日 (西暦) 年齢 (2025 年 10 月 1 日現在)	年 月 日 才
勤務機関 および職名			
学 歴 (西 暦)			
職 歴 (西 暦)			

2025年度

「海洋深層水利用学会特別功労賞」候補者の推薦

推薦者氏名

印

候補者 氏名		所属 機関		生年月日 (西暦)	
業績題目					

推薦理由(1頁以内)

--

受付日 2025 年 月 日

「海洋深層水利用学会特別功労賞」推薦対象業績

（推薦対象となった業績等について，現在から順に実施および発表年次を過去にさかのぼって記載すること。論説・記事等印刷物の場合は，著者名，題目，掲載誌，発行年等を記載すること。）

別紙記載可

印刷発表業績のうちわけ

- | | |
|------------|---|
| 1. 海洋深層水研究 | 編 |
| 2. その他 | 編 |

「海洋深層水利用学会特別功労賞」候補者

略 歴

2025 年 月 日現在

ふりがな 候補者氏名		生年月日 (西暦) 年齢 (2025 年 10 月 1 日現在)	年 月 日 才
勤務機関 および職名			
学 歴 (西 暦)			
職 歴 (西 暦)			

「海洋深層水利用学会賞」および「特別功労賞」候補者の推薦のお願い

2025年4月吉日

海洋深層水利用学会賞授賞審査委員会

委員長 池上 康之

海洋深層水利用学会では、以下の要領で2025年度の学会賞および特別功労賞の候補者の募集を行います。自推薦・他推薦を問いませんので、多くの方に推薦をしていただくようお願いいたします。

- ・ 推薦期限：2025年7月31日（木）必着
- ・ 提出書類：別紙様式（郵送またはメール）
- * 該当する賞の様式を以下よりダウンロードしてください。
 - 「海洋深層水利用学会賞」⇒[2025DOWAS学会賞候補者の推薦.docx](#)
 - 「特別功労賞」⇒[2025DOWAS特別功労賞の推薦.docx](#)
- ・ 書類提出先：〒840-8502 佐賀市本庄町1番
地佐賀大学海洋エネルギー研究所内
海洋深層水利用学会事務局 今田千秋 宛
Eメール: dowas.saga@gmail.com
電話: 0952-28-8624 FAX: 0952-28-8595

FY2025

“DOWAS Award” Nomination Form

Referee

[Seal]

Nominee Name		Institution		Date of Birth	
Title					

Reason for Nomination (1 page limit)

--

Accepted: / /2025

“DOWAS Award” Nominee Achievements

(On Achievements of the Nominee, please describe past achievements in order of most recent first. In case of published articles such as papers, the author’s name, title, publication, year of publication, etc. should be included.) This

section can be listed separately from “Reason for Nomination”

On Published Achievements

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 . Deep Ocean Water Research | Number () |
| 2 . Other | Number () |

“DOWAS Award” Nominees

Brief History

Date_____			
Nominee Name		DOB Age (as of October 1, 2025)	YYYY MM DD Age
Institution and Title			
Education Record			
Career History			

FY2025

“DOWAS Special Achievement Award” Nomination Form

Referee

[Seal/Signature]

Nominee Name		Institution		Date of Birth	
Title					

Reason for Nomination (1 page limit)

--

Accepted: / /2025

“Special Achievement Award” Nominee Achievements

(On Achievements of the Nominee, please describe past achievements in order of most recent first. In case of published articles such as papers and articles, the author’s name, title, publication, year of publication, etc. should be included.)

This section can be listed separately from “Reason for Nomination”

On Published Achievements

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 . Deep Ocean Water Research | Number () |
| 2 . Other | Number () |

“Special Achievement Award” Nominees

Brief History

Date_____

Nominee Name		DOB Age (as of October 1, 2025)	YYYY MM DD Age
Institution and Title			
Education Record			
Career History			

“DOWAS Award and Special Achievement Award” Candidate Nominations

April, 2025

DOWAS Award Review Committee

Chairman Yasuyuki Ikegami

DOWAS is seeking nominations for the 2025 awards and special achievement award in the following categories. As self-nomination, or nominating others is welcome, we ask for your assistance in nominating many people.

Nomination Deadline : July 31, 2025 (Thursday)

Method : Attached form (post or email)

✧ [2025DOWAS_award_nomination.docx](#)

✧ [2025DOWAS_special_achievement_award_nomination.docx](#)

Address : 1 Honjo-machi, Saga-shi 840-8502 Japan
DOWAS Secretariat (within Institute of Ocean
Energy, Saga University) , Chiaki IMADA
Email: dowas.saga@gmail.com
Phone: +81-952-28-8827